

## 令和7年10月 総合教育会議 議事日程

1 日 時 令和7年10月22日（水）午後2時15分から

2 会 場 伊予市役所5階 委員会室

3 出席委員

伊予市長	武智邦典
教育長	上岡孝
教育長職務代理者	矢野ひとみ
教育委員	高橋久美子
教育委員	長見美保
教育委員	上田晃義

4 会議に出席した事務局職員

事務局長	窪田春樹
学校教育課長	小笠原幸男
学校教育課指導主事	谷岡淳
学校教育課課長補佐	武智ゆかり
学校教育課課長補佐	中塚正洋
学校教育課課長補佐	赤石雅俊

学校教育課

学校給食センター所長	武知斎
社会教育課長	北岡康平
社会教育課課長補佐	西岡美加
社会教育課課長補佐	田窪幸司

5 協議事項等

- (1) 伊予市教育大綱の計画期間の変更について
- (2) 伊予市学校等施設長寿命化計画の見直しについて
- (3) 伊予市立小中学校屋内運動場空調設備設置について

午後 2 時 15 分 開会

○武智市長 さて、本日の総合教育会議では、議題にありますとおり、伊予市教育大綱の計画期間の変更について、伊予市学校等施設長寿命化計画の見直しについて、伊予市立小中学校屋内運動場空調設備設置についての 3 件について協議させていただきます。

こうした重要な課題について、市長部局と教育委員会が共通認識を持ち、連携して取り組んでいくことは非常に意義深いものと認識しております。教育委員の皆様と共に素直に意見交換を行いながら、今後の方向性を共に考えてまいりたいと思います。本日はそれぞれの視点で御検討いただき、忌憚のない御意見を賜りますようよろしくお願いを申し上げます。

最後になりましたが、皆様方の御健勝を心よりお祈り申し上げます。

○事務局 ありがとうございます。

それでは、協議事項に入りますけれども、伊予市総合教育会議設置要綱第 4 条の規定により、市長を議長とさせていただきます。

以下の協議につきましては、武智市長の進行でよろしくお願ひいたします。

○武智市長 それでは、定めに従いまして、本日の伊予市総合教育会議に対する傍聴がございませんでしたので、報告を申し上げます。

そして、私が議長の職責を果たさせていただきますので、よろしく御審議のほどお願いを申し上げたいと思っております。

早速ではございますが、協議事項に入らせていただきます。

協議事項 1、伊予市教育大綱の計画期間の変更について、事務局から説明をお願いします。

小笠原学校教育課長。

○小笠原学校教育課長 失礼いたします。

協議事項 1、伊予市教育大綱の計画期間の変更についてでございます。2 ページ目を御覧ください。まず、背景と現状について私から説明を申し上げます。

教育大綱とは、地方自治体の長が、その地域の教育、学術、文化の振興に関する総合的な施策の目標や根本方針を定めるもので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 1 条の 3 第 1 項の規定により策定が義務づけられております。

また、同法律第 1 条の 3 第 2 項の規定では、教育大綱を変更する場合は総合教育会議で協議することとなっております。

現行の伊予市教育大綱は、本市教育の目指すべき姿を実現させるための目標、方針であり、本市の最上位計画である第 2 次伊予市総合計画との整合を図っていることから、計画期間も総合計画後期基本計画と同じく令和 3 年度から令和 7 年度の 5 年間としております。

変更の要因等は、担当課長補佐が説明いたします。

○武智市長 武智課長補佐。

○武智学校教育課課長補佐 失礼いたします。

計画期間の変更の要因について説明させていただきます。

本来であれば、今年度をもって計画期間が終了する第2次伊予市総合計画は、令和8年度より新しい計画に移行する予定でしたが、市長公約を反映させるため、新しい任期開始後から新計画策定の検討に入るという方向に見直され、計画期間を令和8年度まで延長することとなりました。そのため、計画期間を同じくする伊予市教育大綱も計画期間を変更する必要が生じました。

次に、対応方針について御説明いたします。

伊予市教育大綱の計画期間を令和3年度から令和7年度までの5年間から令和8年度までの6年間に変更いたします。

参考として、資料3ページからは、教育大綱の法律上の位置づけ、大綱に関する文部科学省の考え方についてお示ししております。

また、5ページ以降には、現行の伊予市教育大綱をお示ししております。御確認のほどよろしくお願ひいたします。

以上で説明を終わります。

○武智市長 次の令和9年度からの5年間、それとも4年間、そこだけちょっと確認してから。窪田事務局長。

○窪田事務局長 それにつきましては、現在、伊予市総合計画も4年にするか5年にするか検討中となっております。それに合わせて、4年になるか5年になるかを検討していきたいと考えております。

○武智市長 期間はまだ決定していないということあります。

それでは、ただ今、小笠原課長、また武智課長補佐から説明があった内容につきまして、御質問や御意見がございましたらよろしくお願ひいたします。

○窪田事務局長 先ほどの答弁の修正を。

○武智市長 答弁の修正。

○窪田事務局長 4年と5年と申し上げましたけれども、半期4年の2倍の8年か10年ということになりますので、総合計画が、今10年ですけれども、5年の前期と後期ということになっております。それが、4年の前期と後期になるか、5年の前期と後期になるかということで、8年か10年ということになります。

○武智市長 総合計画自体を基本的に1年先延ばしにしているのだから、根本的には10年に1回ということは、計画ということでいけば、一般論からしたら、10年というスパンでいくのであれば、1年延長しとるから6年、残り4年。一般論からすれば、1年先延ばししたっていうのは、現実は違うので、様々なことは総合計画に書いていく必要があるので、もっときちんとした総合計画を組むために1年延ばしたということでそれに並行して教育大綱も合わせてとい

うのなら、総合計画っていうのはもう10年、10年、10年のスパンでやっているのだから、残り9年しかないわけやない。だから、4年で一遍切って、残りの5年は後期計画ということにしないと、それが普通筋なんじやないかと思うど、それはもう。

○窪田事務局長 いずれにしろ、総合計画の前期分に合わせた期間とさせていただきます。

○武智市長 そうそう。前期は、だから一般的に言うたら4年になると思うんですよ、それは任せますけど。

ということで、特にこの件に関しては挙手もないようでございますので…。あ、どうぞ、高橋久美子教育委員。

○高橋教育委員 5年が6年に延びた場合に、その中身、例えば1年ごとの目標値であったり、活動の具体的な計画であったりが、当初5年で予定していたのが、6年間で達成すればよいということになるのか。

○武智市長 4年が5年に。

○高橋教育委員 4年が5年になるのか、それとも新たに加わった1年でまた違う何か、具体的な行動というものが増えるのか、どうなのか。

○武智市長 認識が今の質問で違うかもしれない、補足はするけど、10年、10年、10年と総合計画が来て、根本的に教育大綱もそれに合わすという基本理念があるのであれば、10年だけど、1年延ばしましたと、そしたらあと実際9年しかないわけやね。だから、令和9年度から始まるこの教育大綱というのは、前期、前期っていうのは4年間、残り5年間を次の新しい市長、教育長のときにまた後期計画ということで、4年の前提の部分、前期計画はある程度もうキープしながら、次の後期計画でさらにリセットしながらやっていくっていうのが総合計画でもあり、教育大綱でもあるということだけ認識した上での質問をもう一遍してくれますか、そういうことなので。

○窪田事務局長 今高橋委員さんが言われたのは、今現在、5年で計画しておるものが、1年延びることで何か内容的に変わるものがあるのかというお話を。

○武智市長 この1年間ということ。

○窪田事務局長 はい。

○武智市長 なるほど。小笠原課長。

○小笠原学校教育課長 失礼いたします。

それでは、高橋委員さんの御質問にお答えしたいと思います。

今回の教育大綱につきましては、総合計画に掲げております生涯学習都市の創造というところから大きな方向性や目標を定めておりますけれども、具体的な数値目標等は総合計画の後期基本計画に掲げております。そちらにつきましては、5年が6年になるということで、数値も今変更する方向で詰めておりますので、大きな方向性は変わりませんが、数値の目標としては5年を6年に延ばした形で進めてまいりたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたしま

す。

○高橋教育委員 ありがとうございます。

○武智市長 よろしいですか。

○高橋教育委員 はい。

○武智市長 ほかにございませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○武智市長 ありがとうございます。

次に、伊予市学校等施設長寿命化計画の見直しについてとありますけれども、事務局から説明をお願いいたします。

小笠原学校教育課長。

○小笠原学校教育課長 失礼いたします。

協議事項2番目、伊予市学校等施設長寿命化計画の見直しについてでございます。

表紙を開いていただきまして、2ページ目を御覧ください。まず、背景と目的について私から説明を申し上げます。

国から、令和2年頃までに個別施設ごとの長寿命化計画の策定を求められたことを受けまして、令和2年4月に伊予市学校等施設長寿命化計画を策定しまして、現在、計画期間10年間の中間地点にあることから計画の見直しを行うものでございます。

学校等施設の現状以降は担当課長補佐が説明を申し上げます。

○武智市長 中塚課長補佐。

○中塚学校教育課課長補佐 以降は私から説明をさせていただきます。

2、学校等施設の現状につきまして、上段の表では、令和2年5月から5年後の令和7年5月の施設、またそのうち長寿命化改良事業の検討時期に入る目安になります築30年以上の棟数を示しており、小学校が19棟から22棟、中学校が7棟から10棟に増加しております。

幼稚園数のゼロについては、北山崎幼稚園が令和5年度に、伊予幼稚園が令和6年度をもって閉園したことによるものでございます。

下段の表では、各小・中学校の令和3年から10年後の令和12年までの児童・生徒数をお示しております。令和8年度以降の児童・生徒数につきましては、令和7年3月末時点での伊予市人口調べから推計をしております。

令和3年の児童・生徒総数2,804人から、5年後の令和7年度は2,727人と77人の減少でございますが、今から5年後の令和12年には2,194人と年間約100人ずつ減少していく計算で、児童・生徒数の減少が加速度的に進むことを示してございます。

3、長寿命化改良事業の進捗状況につきまして、令和4年度に中山小学校教室棟の長寿命化改良工事設計に着手、翌令和5年度には郡中小学校23教室棟長寿命化改良工事設計に着手し、令和6年度に中山小学校教室棟の長寿命化改良工事が完了し、本年度、令和7年度に郡中小学

校23教室棟長寿命化改良工事が完了する予定でございます。

今後につきましては、今年度の令和7年度に郡中小学校21教室棟長寿命化改良工事設計が完成予定で、来年度から工事着工の予定でございます。

なお、中山中学校教室棟長寿命化改良工事設計につきましては、令和5年度の本会議の議題で保留することについて御協議いただいておりますことを申し添えます。

続きまして、4、学校施設の課題につきまして、まず1つ目に老朽化への対応としまして、現在、長寿命化改良事業を順次進めているところでございますが、児童・生徒数の急激な減少や厳しい財政状況等の影響により着手できている学校は一部にとどまっており、築30年を超える建物が多くを占める中、適宜建物の修繕、營繕工事を行っているものの、根本的な解決には至っていないことが喫緊の課題となってございます。

2つ目に、多様なニーズへの対応としまして、学校施設が学習・生活の場であるとともに、地域活動の場としても利用される身近な公共施設であるため、多様な教育活動への対応、環境への配慮、バリアフリー化の推進、トイレの洋式化、避難所機能の強化等、施設の充実が求められております。

3つ目には、学校の小規模化への対応としまして、急激に少子化が進行する中、学校の小規模化はさらに加速化することが予測されることから、施設整備を行う上で考慮すべき課題となっております。

5つ目、今後に向けてにつきまして、1つ目に、老朽化対策を図る整備といたしまして、今後も長寿命化を基本としながらも、国の動向を注視しながら、有利な国費の活用が可能であれば、他の既存施設との一体的な改築も含め、検討していくことといたします。

2つ目に、施設の特性に配慮した教育環境の充実としまして、体育館やプール等の体育施設についても施設の改修が将来にわたって必要になっていくことは必然でありますので、総合的な視点から、学校施設の集中化、多機能化、民間活力の導入など、様々な手法について検討していくことといたします。

3つ目に、学校の小規模化への対応といたしまして、愛媛県内におきましても公立小・中学校の統廃合が検討されておりますが、本市においても、子供たちによりよい教育環境を提供することを目指し、小・中学校の適正規模・適正配置等について検討協議を進めながら、学校施設の整備と連携した一体的な取組を進めていくことといたします。

以上、よろしくお願いをいたします。

○武智市長 今、小笠原課長、また中塚課長補佐が説明したことにつきまして、色々ありますけれども、御質問の前に、ここの2ページの資料のなぜ今由並小学校と翠小学校があるのにひとつついているのでしょうか。

中塚課長補佐。

○中塚学校教育課課長補佐 この2つにつきましては、同じ上灘というところで、由並と翠で

区切る地域について分ける形ができなかつたものですから、私のほうで、ここについては一旦2つ一緒に数字とさせていただいております。

○武智市長 分けることができなかつたという意味が分からぬのだけど。

○中塚学校教育課課長補佐 住所の字といいますか。

○武智市長 だつて、そら双海町の人は分かつとるかもしけんけど、現実に平成十七、八年頃に、19年か、翠小学校を改修したのは、15名の生徒でも31名になつとるわけよね。由並は並立しているのだけど、だから今由並小学校は何人おつて、翠小学校が何人おるのか、この表では全く認識ができるんで、補足でもええから、紙ベースに、この表では分けることができんといふのは、よう分からんけど、理解するにしても、委員さんがこれ何やねんって、これ最初から由並と翠は合併さすつもりかというふうに取られてもしようがないような表になつとるから、これはあかんで。取りあえず今現在、由並の令和7年度の生徒数、翠の生徒数が分かっているなら、口頭でもええから、言ってください。

○窪田事務局長 由並小学校が41名、そして翠小学校が30名でございます。

○武智市長 30名なん、31名ってこの間、東京で僕発表したのだけど、都市センターで、国際会議で。

○窪田事務局長 5月1日現在での数字となつています。

○武智市長 ああ、そうなんや、分かつた。この間の私のラジオでも既に流れているのですが、例えは砥部町はもう中学校が1つなのです。だから、そこに集中していろんな施策が組めるのだけど、それは砥部町長の考え方を僕はあらがうつもりもないし、それが正解だと思うけど、伊予市には9つの小学校と4つの中学校がある。その中でも、佐礼谷はもう全校生徒が10人切つてゐる状況で、本来であれば財政のことを考えたりすると、佐礼谷も中山小学校に統合するのがいいのだけど、それだけじゃないっていう部分があるので。今、教育長たちと話していますが、保護者、もろもろがもう子供たちの教育のためには中山に行かせてよという声が多いのであれば、地域よりも保護者を優先するというか、子供たちが一番の主役ではあるので、そうするけれども、そういう声はあまり聞こえない。ぎりぎりまでは踏ん張るけれど、今の状態から考えたら、まず、佐礼谷は中山小学校と統合するしかないだらうと思います。さらに、このままの勢いでいくと中山小学校は南山崎小学校と統合して、南山崎小学校は郡中小学校と統合してと、郡中小学校はまだあまり減らんから、もしかしたら旧伊予市の郡中校区に2校論という話も出てくるかもしれないが、それはずっと先のことなのだけど。

そういうことを鑑みたときに、さつきの大綱のことも考えて、向こう10年間の論議を皆さん方教育委員さんにしてもらって、方向性を決めていく会である程度で認識をして、御意見を賜りたいと思います。どうかもう好きなように忌憚のない御意見を言ってください、何か言わないと前向いて進まんので。

だから、中山の減り方を考え、設計を一旦止めたところもあるのだけれども、今後、どうな

っていくかは、わかりません。でも、できたら来年のことを見て、佐礼谷とか、中山とか、それでもきれいごとを言ったってお金も必要なので、それをするのに、そこに金を入れ過ぎると、逆にしんどくなる部分もあるので、今のところは、明日、あさって壊れるような建物ではないので、いずれどうするかということに対する長寿命化改良事業の委員さんの御意見を聞いて次に反映するということになっているので、よろしくお願いを申し上げます。

矢野委員。

○矢野委員 まず、最初に質問です。4ページの今後に向けての説明で、有利な国費の活用が可能であれば、他の既存施設との一定的な改築も含めて検討するとあるが、具体的に考えているものがあれば教えていただきたいと思います。

それから、(2)のところで、これはちょっと校舎を飛ばして体育館やプールになっていますが、これは後でもいいのですが、プール等についても問題がもうかなり出ているのではなかろうかと思うのです。報道なんかを聞いて、出てきているようなので、そこら辺あたりも何かお考えがもあるようでしたら教えていただければと、まず質問になります。

○武智市長 中塚学校教育課課長補佐。

○中塚学校教育課課長補佐 1つ目の他の既存施設の一定的な改築でございますが、これについて、今後のほうが何か新しい補助事業を示しているものではございません。今後、文科省も一体的な取組とか、1つの学校に対して公民館を入れるであるとか、そういったことも文言の中では出てきておりますので、そういったこととひっくるめて改築するのであれば、有利な国費の導入も活用することができるのであれば、それも一つの検討として、今後、材料の中の一つとしては入れておきたいという意味でございました。今現在、何か具体的なものがあるというものではございません。

そして、2つ目のプールにつきましても、委員さんがおっしゃられるように、松前町さんが今年度から試験的にエミフルのフィッタのプールで水泳の授業自体を委託されているというのも進められております。

本市において、民間の施設を活用した事業の委託でございますが、地理的な条件等もございますので、一概に今ある13校の授業をそういったことに活用できるかといえば、それは今非常に難しい問題があると思いますですから、今後、将来的には、13校全部のプールについて改修または改築をするのかっていうこともありますし、授業自体を夏場だけで限定するのではなく、施設のプールがあるのであれば、冬場のことも考えて、年間を通じてどこかで1こま、2こまプールができるとか、そういったことも視野に入れて検討していきたいというところでございますが、今何か具体的なこれについての案があるのかと言われましたら、それについてはまだ今の段階ではあるものではございません。以上でございます。

○武智市長 今中塚課長補佐が言った説明で理解されている方は理解されたかもしれませんけど、例えば今この伊予市役所も1階に郵便局が入っています。要するに、学校と公民館を合わ

せて国の有利な補助があるのであれば、そういうシステム構築で学校を直していくようなことも考えられるけど、今はそれが具体的にこうだということは言えないということです。

もしかしたら温水プールをどこかに造ってやるのか、冬場に外で泳がすことはできないから、そういうものも視野に入れるか、カリキュラムを上手に学校13校でまとめて、港南中学校のプールか、郡中小学校とせめて港南中学校か、港南と郡中は人間が多いから、でもちょうど伊予市の中の中間地点やから、逆に南山崎辺りでも遠いかな、取りあえず1つ大きな立派なプールを構えて、授業日程を合わせて、そこに伊予小学校や双海中学校が行くとかというような考え方もあるかもしれないけど、アバウト過ぎて、今はまだ計画の段階でもない。そういうことをしゃべったように私は捉えましたけど、矢野委員、どうぞ続けてください。

○矢野委員 分かりました、どっちもアバウトだと。

プールについては余分なことを言ったのでいけないですけども、どうしてもこれを話したと、もう子供が減って仕方がない、金もないのに、小さいところは、移動しろと言っているのではないんですけど、もうそういうふうな方向にどうしても話がいきますよね。

○武智市長 別に名前を出すのもあれですけど、田中 弘議員、佐礼谷小学校が閉校して、中山と統合するべきだと、子供たちがかわいそうだと逆に言っている論法もあるので、一概に少ないからなくして、多いところに集約をかけるという位置づけではなしに、子供たちが、全校8人となれば、上の学校に行ったときに困るという意見もあります。例えば伊予小・中学校は9年間一緒、運動会も一緒にしているけど、港南中学校というのは北山、南山、郡中の子供たちが集まってやるから、知らない子同士が中学生になって、そこでまれ、高校に行くことで、ハートが強くなるかどうかは別にしても、そういったことがあるのだけど、小さな、これは言い方が悪いけど、井の中のカワズで勉強すると、ちょっと後で困るよねという部分もあるので、一部の意見かもしれないが、そういった意見もあるということだけはご承知ください。

淡路島の尾崎小学校なんかは30人で閉校したのですよ。教育会議と関係ないけど、令和10年11月に、三秋の山に来るのであろうバルニバービという会社が、今、レストランと宿泊所と3階のサテライトスタジオを造っています。だから、伊予市というのは、ある意味希有じゃないのかなという部分もある。離島ならあるけれども、陸地の中で、8人ぐらいで存続する、これはもう佐礼谷は住民自治なんかでも頑張っておるところもあるし、いろんなことがあるんで、そこに小学校がなったらどうなるのということも想定しながらやらないといけないよね。多分私がもしかしたらもうあと3年半しかないし、多分教育長もあと3年半しかないので、その間は佐礼谷小学校はあるかもしれないけど、その後はどうなるか分かりませんけど、ということになってくる。

双海においても、由並の減り具合から見ると、もしかしたら翠小学校と統合するかもしれないし、ある意味行政の部分からいうと、由並小学校を、これは僕の勝手なたら話やけど、あの海の見える民宿みたいに変えてやっていくことも一つの案かなど、いろんな案はあります。

ただ、今のところ、人口というか生徒数も少子化で減ってきている中、子供がいなくなるのに学校に金を入れてどうなのっていう意見が大前提にあるのではないかなと思っています。どうぞ続けてください。

○矢野委員 市長さんの言うことは本当によく分かります。私も、小規模、それから大規模、長所、短所、どちらも一応分かっているつもりです。したがって、これでこういうふうなものを提案されて、そしてこういうふうな状態になるから、これで一応納得をしましようっていうふうな話合いで終わるのであれば、ここで話は終わりになりますね。

○武智市長 これは事務局にお答えさせます、小笠原課長。

○小笠原学校教育課長 失礼いたします。

それでは、矢野委員さんの御質問にお答えしたいと思います。

今回は、今現状がこのような形であるということでお示ししただけでございまして、これ以外に、今各施設の劣化度調査、どれぐらい老朽化しているのかという調査も行っております。それらの結果も踏まえまして、また今日いただいた御意見等も含めて、今後、どういう形で長寿命化改良工事や老朽化対策を講じていくかということをこちら検討してまいりたいと思っておりますので、児童数、生徒数が少ないところには投資しないとか、そういう考えは全くございませんで、いただいた御意見で、地域の方々の思いも含めて、今後、どの学校をどういう形で存続させていくかということを検討していく資料として現状をお示ししただけでございますので、御理解をいただきたいと思います。

○武智市長 今日はこの会で一応話したことが決定事項でも何でもないのだけど、それぞれの委員さんの御意見を聞きながら、ということなのですが、現実に、この後出てくる体育館の空調施設に関しても、13校全て一度にやるのはどうなのか、じゃあ減っていく中山ほっとけ、双海ほっとけということになるのかと。+誰一人置き去りにしない、誰一人取り残さないというのであれば、マンモス校の郡中や港南は優先的にやるにしても、双海の学校も中山の学校もやらんといかんし、その順番の優先順位をつけ方も考え方とかんと、生徒数が多いからやる、そこに防災の避難施設っていう位置づけもあるので、そこらも含めて考えんといかんけど、委員さんの意見も聞こうねっていうのが3番目の議案なので、あくまでも今日ここで言っている長寿命化計画の先延ばしとかもろもろ、まだ劣化調査ができない、出来上がった段階でこういう方向性で取りたいのですけど、というのはある意味決定事項になってくるかもしれないけど、今皆さん方の御意見を聞きながら、劣化度調査等も加味しながら、今後の対応をつくる前段の教育会議ということで認識をしていただいたら、ありがたいと思いますけど。長見さん、何かご意見ありますか。

○長見委員 すごく意見するのが難しいというか、児童・生徒が減っていって、予算も少ない人数にこれだけかけていくというのが難しいのも分かりますし、それでもやっぱり残してほしいという気持ちもありますし、ずっと平行線だと思います。例えば、中山中学校の改良工事が

中止になったと思うのですが、これが再開される予定はあるのですか。例えば、数名かもしれないですが、何年か後にもやっぱり生徒、子供はいるわけで、老朽化をずっとそのまま置いとつていいわけでもないと思うのですが、そこが、結局人数が少ないからじゃあ、もう何を言っても平行線かなと思うのですが、残してもほしいような。

翠小も数年前には人数が減って統合の危機があったのですが、今は30人、私たちの子供のときは20人前半だったこともありますので、私からしたら30人って多いのですけれども、また数年たったら、もしかしたら状況が変わってくるかもしれない、もっといい何かを、市長さんが開発されて、いろんな問題が解決され、移住も増えているかもしれません。翠小は今とても活気があると思っているし。すいません、意見がまとまりませんが。

○武智市長 いやいや、翠小学校は根本的に未来に存続をするからということで、S B Eという、持続可能な建築物ということで、この間東京で私、発表してきました。国際会議ですよ。だから、翻訳機もつけて、外国人がいっぱいいて、5人のプレゼンターで。

最初マレーシアの教授がやって、松江の市長がやって、私がやって、山口県の木造住宅の会長とか社長がやって、5チーム。そこで優勝したら世界大会はメルボルンで、その日に聞いたからちょっと本気でやろうかなとかと思いながら、発表は来年、うちはそうなのだけど。要するに、15人が30人になったという位置づけっていうのはこれ画期的なことで、絶対数は少ないけれども、倍に増えたのですよ、これはすごいことなので、その持続可能な建築で2億円弱の金額をもって改修したので、当分もつでしょう。だから、あそこは大改修が終わつとる。

その中で、由並をもしこのままほつとしたらどうなるか。僕はラジオでも言っているけれど、本当は新しい命が生まれることを一番望むが、今の時代なかなかそれもかなわないのであるならば、雇用の促進とかをしながら、東京や大阪から人を引っ張ってこないと、緩やかな人口減少に歯止めがかからないよねっていう位置づけの中、そこに伊予市っていうところは、もう皆さん御案内のとおり、幸福度、幸せ度のランキングは全国で2位になった、4年前、この3年連続四国ずっと2位なのですよ、要は4年間連続愛媛県では1位の幸せ度、これ大東建託の偏ったアンケートやから、でもそのおかげで角川ドワンゴ学園のN校やS校の生徒が30人ぐらい来て、2泊3日ぐらいして、伊予市でポスター作ってくれたり、伊予市のプロモーション動画を作ってくれたりしたっていうのは、ある意味ありがたいことかなと思うけど、でき得るならば移住者も増えて、そこに子供の数も増えてくるのなら、望みですけど、なかなか今の日本国をにらんだときに、東京だけが増えて、あとどんどん減ってくる現状というのは、何が言いたいかというと、もう人口減少はこれ否めないのでよ。

今が令和7年だけど、団塊の世代がピークを迎えて、伊予市も5人1人が75歳以上なのです。僕が言ったのは、子供のことも関係するのだけど、結局平成25、6年に小笠原課長がそういう担当をしたときに「3万人が住み続けられる」って持ってきたのだけど、こんな無理なことは過去のことなので、なぜ無理かというと、団塊の世代がピークを迎えて、僕は敬老会で

は、これから伊予市の元気は75歳以上の人気が引っ張っていくのですよって言っているけど、私も含めて、その人たちが鬼籍に入るエージになったときには、今こう下がってきたんが、ある時期にガクっと下がるんですよ、間違いなく一気に下がっていく。それをどうするかっていいたら無理だろう、委員会が、数値目標が要るっていうのです、じゃあ書きなさいやと、書いた以上やらんといかんわねっていうので今必死で種まきもいっぱいやっている現状で、確かにホテルとかレストランも来ます、いろんなこともやるけれども、それだけではこの今の伊予市的人口減少には歯止めがかからない。イコール人が減るっていうことは、もう当たり前のことかもしれないけど、今まで当たり前だと思っていたことができなくなる、これが人口減少ですよ、ある意味角度を変えたら。その枠の中で、やっぱり一生懸命、長見さんの言葉を借りると、頑張った人が来て、もしかしたら数字が変わってくるかもしれないなんていうのは、一番望むところなのだけど、なかなか今の状態で、この数字の流れっていうのはほとんどニアリ一になってくると僕は思いますよ。

だけど、ある程度あくまで何もしなかったら、2060年に伊予市的人口は1万7,145人になるって書かれたのですよね、愛媛新聞に。あくまでも何もしなかったらという一生懸命種まきしているけど、その枠の中でも、多分この生徒数の数字が幾分の増減はあるかもしれないけど、極端な増にはならないと思う。そのときに、恐らく統廃合という位置づけになってくるけれども、やっぱり危ない施設で勉強なんかさせるわけできないから、統廃合のことが出る前に、ここだけは改修しとけよっていうたら、そこには力を入れますよ。全部改修してというて、何億円もかけてっていうたら、なかなか難しい部分はあると思うけど、そこらの臨機応変さは取らないと、多分大切な子供たちの命が守れないという部分もあるので、そこらは考えてていきます。地域住民、そして保護者、一番は子供たちの気持ちやけど、保護者や地域住民の気持ちと、また伊予市のお財布もにらみながらやっていかねばならないということで、意見をどんどん言ってください。今日は決定事項でも何でもないので、皆さん方の意見が次のステップになると思いますので、ぜひぜひ。上田さんもどうぞ。

○上田委員 これ数字だけで見たら厳しい状況にはあると思うんですけど、佐礼谷に関しては住民のアンケートみたいなのとかはあったりはするのですか。廃止とか、そういう関係に関しての調査はないですよね。

○武智市長 小笠原課長。

○小笠原学校教育課長 失礼いたします。これまで違う視点から地域の方に取ったアンケートについては、学校や保育所とか、そういう施設を残してほしいというのはありましたけど、この適正規模・適正配置の観点の中ではまだそういうアンケートは取っていないのですが、今後、検討するに当たっては、当然保護者の皆さん、また地域の方々にはそういう御意見をお伺いしたいとは思っておりますし、そういう御意見も踏まえて、方向性は決定するべきだと考えております。

ただ、これまで別の形で取ったアンケートでは、当然学校とか、そういう子供が使うような施設は残してほしいということはお伺いしたことはございます。

○武智市長 下灘中学校がなくなりました、永木小学校がなくなりました、野中小学校がなくなりましたと、決して地域が疲弊はしてないし、一生懸命地域住民が自ら運動会をやったり、中山の人らの盆踊りの目を見たら輝いているぐらいすごいのだけれども、佐礼谷に多分小学校という施設がなくなって、合同運動会なんていうのはなかなか当然できもしないし、盆踊りぐらいはやるだろうけれども、じゃあどうなのっていう住民感情は非常にあると思うし、何のために住民自治をつくってきたんだって、佐礼谷の人が頑張っても、子供はなかなかつくれないという部分があって、数字ありきじゃないけど、明日、明後日、来年、再来年、急に閉校にするというのではなく、ちゃんとしたアンケートを取りながら、ちゃんと説明責任を果たす必要があることは我々も共有しています。高橋委員、何かありますか。

○高橋委員 統廃合という点でいうと、例えば先ほどの話だったら、じゃあ中山は南山崎とくっつくのかっていうお話をしたが、小中をくっつけるという考え方もあるのではないかと私は思っているんですね。小中一貫校だったり、義務教育学校だったりの形にして、そうすると、今数字だけを単純に見ていても、例えば令和12年の中山中学と中山小学校を合わせても十分どちらかの校舎に入る、一つの学校でやっていける、下灘小学校と双海中学校をくっつけるとすると、地域から物すごく外れたところとくっつけるのではなくて、一緒にできるので、多分今、この13という学校の数をそのまんま残して、じゃあ全部改修してっていうのは多分現実的には難しいので、どこかと統廃合をしなくてはいけないのだとしたら、同じ地域で小中一貫みたいな形を考えると、遠くまで無理やり連れていくとか、地域に人がいなくなっちゃうんじゃないかなという心配は多少、回避できるのではないかなという気はいたします。

○武智市長 余談かもしれないけど、下灘小学校は減っていないんですよ。なぜかというと、漁師が稼いで、結構奥さんを引っ張って帰って、子供をいっぱいいくつて頑張っているから、そこに今下灘小学校と双海中学校を抱かせるというのは、多分逆に地域からすごい反発が出ると思う。だけど、どんどん減っていくのは致し方ない考え方で、由並が今逆に言うたら減ってきてているような状態なので、翠小学校をどうするのか、それとも翠小学校は金も入れているので、増えている、倍も増えている枠の中で、そこをじゃあ双海中学校と由並、翠を抱かした小中一貫というのはどうかと、色々な考え方があるんだけど、御意見は、大きな参考にはなる。

であるならば、小中一貫で一番やりやすいのは伊予小・中なんよね。これがなかなかじやあどうなのっていう部分に含めて、教育長の上岡 孝さんにこの話の総括じゃないけど、御意見をお願いいたします。

○上岡教育長 小中一貫の話も出ましたけど、私が就任する前にそういう話は実はあったのですが、結局いろんなハードルをクリアしなきゃいけないということと、ただ今小中一貫にしても小学校の複式は解消できないです。統廃合の適正配置とかをやる場合には、必ず一つにな

ってくるのは複式の解消というふうに考えていますので、統廃合する場合には、やっぱり複式の解消ということは考えの中に入れておかなければならぬと考えております。

それから、もう適正配置の方向につきましては、今年から横断的に市職員で、各部局から意見を出して会合等を開いております、どうすれば一番予算的にも地域的にもいいのかという案を、今はまだ職員だけの段階ですけども、それをさらに令和8年度、来年、有識者もそこに加えながら考えていきたいと思っております。

最終的に、令和9年度の終わりには、ある程度そういったものを、教職員も、あるいは地域の方も説明をしながら、令和9年度にはある程度こういうふうな、いつするというのはまだなかなか難しいですけれども、こういうふうに統合するのがベストではないかというのは令和9年度の終わりには考えていきたいと話はしております。以上です。

○武智市長　国という言葉が出たので、1つだけ私の立場で言うとすると、やれ隣の町は給食費が無償で、やれ隣の町は給食代が要る、これで自治体間の子供の奪い合い、隣の町は保育士の給料がいいけど、あっちのほうが安いからこっちへ行こうとか、ある意味そこの部分を日本国が人口減少問題に本気で取り組むのであれば、ナショナルスタンダードで、もうどこの自治体でも同じようにしないとおかしくなってくると僕は思うけれども。ただ、そのときには、やはり一番確実にそのことが補填できる対応っていうのは、ここにも学校があって、ここにも学校があって、あれもこれも全部やってあげるよっていいたらなかなかその維持管理ができないんで、そういうことも入ってこようかと思うけど、これは3年、4年、5年後、もっともっと人口が減ってきて、遅い部分は遅いんだけど、今遅いって諦めたら単なるデータになってしまふんで駄目だけど。やはり今後、そういうことも含めて、今は例えばさっき言った砥部中学校、砥部には中学校が1つしかないで、そこに強くいくと、そこで勉強したら高校も選べる、ある意味そういうことをやれば電動自転車の補助もできるとか、そういうふうにしながら、砥部のある意味子育て支援の魅力を発信していこうという古谷町長のしゃべりが、この間、ラジオで近いうちに流れるのか、もう流れたのか忘れたけど、その枠組みとまた伊予市は条件が違うし、松前にはさっき言ったフィッタがあるから、そういうプールでのこともできるけれども、じやあ中山の人も双海の人もフィッタに来いよって、なかなかそれはあかんでしょう。子供たちも、由並小学校は海もあるけど、海っていうのも危険ではないにしても、いろんなことがあるので、そういうことの精査をしていくのだけど、やはりナショナルスタンダードである程度国が見ないといけない、これがテーマ3で出てくる体育館のエアコンのこともある意味ナショナルスタンダードじゃないと、あっちの学校はエアコンがあるけど、こっちの学校はないよねと、うちの子は熱中症になつたらいけないから転校させようと、こういうふうになっちゃうので、といったことも含めたときに、どうあるべき姿が正しいのかっていうのは、結局は数値目標なので、児童・生徒数が伸び上がっていきところと伸び下がっていくところでいうたらそれぞれの分はあるけれども、今日はその統廃合とかというのも含めてやけど、長寿

命化の考え方として、長見さんじゃないけど、平行線なのだろうけれどもという部分もあるけれども、御意見を賜りながら次に生かそうということなので、すいません、まだ言い足りない人があったらこのテーマはまだ続いてもいいのですけど、特になければ一応ここで収めて、次に行きたいと思います。

それでは、協議事項3、伊予市立小中学校屋内運動場空調設備設置について、事務局から説明をお願いします。 小笠原課長。

○小笠原学校教育課長 協議事項3番目、伊予市立小中学校体育館の空調設備設置についてでございます。表紙をめくっていただきまして、2ページ目を御覧ください。

まず、背景と整備状況について私から説明を申し上げます。

国は、学校施設の在り方として、子供たちの学習・生活の場でもあるとともに、災害時の避難所として、地域住民の生命安全確保のため活用されていることから、防災機能を強化し、耐災害性の向上を図る必要があるとしております。

全国的には、令和6年9月時点の体育館空調設置率は約2割程度にとどまっている一方、県内におきましては、令和6年度に四国中央市が全小・中学校の体育館に設置したほか、令和7年度、今年度は、東温市、愛南町が設置予定であるほか、令和8年度には、新居浜市、松野町が、また宇和島市が今後3か年で全小・中学校に設置予定であるなど、空調設置に向けた動きが活発化しております。

本市におきましても、近年の猛暑に伴う熱中症等の事故を未然に防ぐため、児童・生徒の学習の場であり、避難所施設でもあることから、様々な視点で検討していく必要があると考えております。

本市の学校体育館の現状、以降は担当課長補佐が説明を申し上げます。

○中塚学校教育課課長補佐 以降、私から説明させていただきます。

2、本市の学校体育館の現状につきまして、市内小学校9校、市内中学校4校の計13校全てに体育館が1棟ずつございます。現時点で空調の設置はございません。

下段から3ページ上段にある児童・生徒数の予測につきましては、先ほどの資料2にある表と同じものとなっておりますので、説明は割愛させていただきます。

3、検討課題につきまして、1つ目に、設置する学校の選択について、市内小学校9校、中学校4校のうち、どの学校から設置を進めていくべきなのか、学校の適正規模・適正配置等の視点、避難環境の整備の視点に加え、イニシャルコスト、ランニングコスト、財源等など多方面からの検討が必要であると考えております。

2つ目に、空調方式について、主なものに(A)から(E)の5つの方式があり、それぞれにメリット、デメリットがあることから、本市に見合った方式を慎重に検討していくことになると考えております。

(A)の電気式空調のメリットは、イニシャルコストが抑えられ、メンテナンスが比較的容

易である半面、ランニングコストが高くなります。

(B) の電気式輻射式空調のメリットは、無風で音や振動がなく、省エネ効果が高く、メンテナンスが比較的容易ですが、これはイニシャルコストが高くなります。

(C) のガス式空調のメリットは、消費電力が抑制され、停電時でも稼働が可能となりますが、イニシャルコストが高く、メンテナンスが比較的困難になる場合がございます。

(D) のガス式輻射式空調のメリットは、無風で音や振動がなく、省エネ効果が高く、停電時も稼働が可能ですが、(C) のガス式空調以上にイニシャルコストが高くなり、メンテナンスも比較的困難になる場合がございます。

最後、(E) の電気式スポットエアコン空調のメリットは、工期が短く、イニシャルコスト、ランニングコストともに大幅に抑えられますが、活動・作業スペースだけを直進性の高い風で冷やすため、広範囲、多人数への冷暖房能力は低くなります。

4ページをお願いいたします。

3つ目に、断熱改修の有無について、屋根遮断塗装、窓ガラスへの遮断フィルム施工などをすることで空調効果がより向上いたします。国の補助金を活用する場合は、これらの断熱改修が必須ですが、事業費が高額となり、また工期が延びることなどの懸念点もあるため、このことについても慎重に検討を重ねる必要があると考えております。

4、今後の取組につきまして、1つ目の設置する学校の選定については、もちろん学校適正規模・適正配置等の検討を急ぐ必要がございますが、これから議論となることから、設置判断及び設置時期が遅れてしまうことは避けられない上に、誰一人取り残さない教育環境の提供を掲げる中、空調整備箇所に優先順位を付すことは、児童・生徒に対する公平性が確保できないと思われます。

一方で、災害発生時の地域住民の安全確保という観点から、避難所機能の向上は防災・減災対策の強化につながることから、本庁地区、中山地域、双海地域にある各中学校4校及び最も多くの人口を抱える郡中地区において、避難所として最大の収容人数を誇る郡中小学校を加えた計5校にまずは優先して設置をするのが適当ではないかと考えます。

なお、その他の小学校体育館への空調設置については、引き続いて今後の検討課題とすることといたします。

2つ目の空調方式、断熱改修の検討については、避難所機能の向上を目的に空調設備を設置することから、災害発生時に強靭性の高いシステムとなるよう、危機管理部門との協議、調整により採用する空調方式を決定するものであると考えます。

その際、国の補助事業を活用する場合には断熱改修が必須となり、市財政に与える影響が大きいため、断熱改修を必須としない緊急防災・減災事業債の活用を視野に検討を行うこといたします。

3つ目の空調設置の時期については、令和8年度当初予算に体育館空調設置の設計費を、令

和9年度当初予算で設置工事費を予算計上することで、スピード感を持って整備を進めることができると考えるため、今後、財政課、危機管理課との協議を本格化してまいりたいと考えております。

以上、よろしくお願ひいたします。

○武智市長 ただいまの説明について何か御意見、また御提案等々ありましたらよろしくお願ひします。

空調方式に関しましては、ここで意見を聞くっていうよりも、俗に言うイニシャルコストっていう、導入コスト、初期費用がかかるけれども、こういうところではこういう有事の際にはこういうことがメリットであるという枠だけど、どうしても新しいものを入れると、初期費用はかかるので、メリット、デメリット、長所、短所があると思うので、今日は、この準備とかもらもろについて、それぞれの御意見を聞きますので、よろしくお願ひします。どんな意見も結構です。言うたらたわいもないことでも結構ですので、どうぞお願ひします。矢野委員。

○矢野委員 たわいもない質問です。

今後の取組について、4番、ページの最後ですが、その他の小学校体育館への空調設置については引き続き今後も検討課題とするとなっています。政治的に検討すると言ったら、しないということではないのですか、政治家が言う検討というのは、どういうことでしょう。

○武智市長 おっしゃるとおりだと思いますよ。僕は議員のときに、理事者が検討いたしますというのはイコールしないということやないかと、それよりもっと具体的に答弁せよというようなことを言ってきたけど、ここで検討するというのは、今後、根本的な基本理念は、全学校の体育館、13校全てに持っていくつもりでいるけれども、子供たちの減少数とかもろもろで、まず今ここで訴えている市内中学校4校、プラス郡中小学校、これをやった後に。

○矢野委員 検討するということですか。

○武智市長 そうそう、その人口というか、生徒数動向も見ながら検討してやらないといけないという部分で、検討しないと言っているのではないのです。

○矢野委員 ない。

○武智市長 そうだと僕は認識しているけど。小笠原課長、どうぞ。

○小笠原学校教育課長 失礼します。

市長のおっしゃるとおり、検討しないというものではございません。13校の体育館は全て避難所になっておりますので、今回、設置を希望しております5か所以外のところも、危機管理部門としては同じような環境を地域住民の方に提供したいという思いがあるようです。その設置検討の中で、適正規模・適正配置のことも入ってまいりますが、危機管理は、もう学校があるなしにかかわらず、避難所として継続される限りは設置したいというところでございますので、その方向で検討を進めたいと思っており、私どもはそのときの学校の間に入って調整役を務めたいと考えておりますので、こちらについては、財源が許される限り、早く設置作業を進

めたいと考えているところでございます。

○武智市長 偏った意見を教育会議で言う話じゃないのだけど。僕はバッシングされているのだけど、市長、南伊予っていうのは、双海町、中山町の人口よりも多いのに、なぜそこまで中山などに、色々やるの、と。そうじゃないでしょうと言いながら、僕は意見をぶつけ合い、やってきてているのだけど、そういうふうに思っている人はいつまでたってもそういうふうに思うのですよ。少ないところに金入れるのなら、多いところに金入れやつていう部分があるけれども、今回、例えば中山中学校、双海中学校にエアコンを入れるのだったら、何で伊予小に入れないのでかと、こういうことになってくるのだけど、自治体というのはそういう考え方は無しに、合併してよかつたねって思える施策は、誰一人置き去りにしないという部分があるので、時々言ってあるのは、今年度も伊予市は、みなし過疎債を使えるようになっているので、みなし過疎債っていうのは四国で唯一伊予市だけですよ、使えるのが。要は、ここの中伊予市は過疎債を使えなかった、中山町、双海町は過疎債を使えていたので、中山と双海が一緒になったことで、郡中というか、旧伊予市が過疎債を使えるようになった、それはお互い様でしょって。その予算を双海だけに、中山だけにと言っているのではないんで、一部っていうことを言わんと、時々過疎債廃止論者は、全部中心市街地にその過疎債をみなし過疎債を持っていくって、いや、違いますと、伊予市はちゃんと中山、双海にも振り分けてまいすよと、言っているんだけど、そういったことも含めて、それぞれ合併したよさとか、ある意味難点、メリット、デメリットがあるので、そういったこともやりながらで考えているのが、少なくとも私が市長の間は教育長と同じ考え方で足並みそろえてやっていくんですけど、だから決して中山小学校とか、双海の小学校とかを後回しにするつもりは全くないです。財源のことということで、一遍に本当は東京みたいに水道料金も全部ただよって、税金がたくさん入ってくるところだったら言えるかもしれないけど、そういうところじゃないので。

1つだけ、3月議会に200億円の予算が通りました、今年の3月議会に。絶対削れない予算っていうのが165億円ほどあるのですよ。これは、人件費であったり、扶助費であったり、国に借りた金を返す借金であったり、それが165億円。残りの三十四、五億円で道路の改修であったり、水路の改修であったり、のり面の整備とか、学校の施設とか、トイレの洋式化とか、公園の整備とか、今回、今年は20周年合併記念イベントのそういった経費とかをやっているのですね。だから、その限られた三十四、五億円で運営している部分が大体そういう部分もあって、ただ我々としては、ある意味誰が市長になったって普通交付税というのは国から下りてくるんだけど、我々は今回も特別交付税ということで一生懸命作文を書いて、総務省が握っている特別交付税を7億円要望しました。本来ならば能登半島地震とか、雪害でよそに回されるのを、今回、伊予市については7億3,500万円ついたのですよ。それもある意味200億円に入っている。その枠の中で一つ一つやっていくので、3年前におまえ頼んだのに何もやってくれへんやないか、ではないので、待ってくださいよと、優先順位つけて、緊急度を測りながらやって

いくので、やらないとは一言も言ってないので、ただ絶対やれないような話も、ここに東京タワー造ってくれって言ったら絶対無理な話なのだけど、そういったことじゃなしに、地域が今困っていることは優先順位をつけてやっていますから、お金があれば全部一気にやるけど、そういうことはできないので、これは御理解くださいねって言っているので、それを説明したら分かる人は分かってくれるので、だからよーいどんでやれるのが一番いいけれども、そういうことにはならない部分があるのも、また教育委員さんの立場から地域住民の方々にも説明なり、お話を聞いていただきたいなと思います。矢野さんの言うように、検討するって多分やらないよって言ったら駄目なのです。

○矢野委員 だから聞いたのですよ。検討をちゃんとしていると言えます、これで、はい、大丈夫です。

○武智市長 我々は自治体として一生懸命に一緒になった中山町、双海町、旧伊予市をどう未来に紡いでいくということを今の段階では考えていかないといけないのが我々の仕事かなと思っていますけど。高橋さん、何かありますか、空調設備について。

○高橋委員 ちょっと私は理解力が不足しているのかもしれないですが、断熱改修の有無のところと、空調方式断熱改修の検討のところで、国の補助事業を活用しようとすると断熱改修が必須になってくると結構これ大変だから、あまりそこは考えて、検討は行うとは書いていますけれども、消極的な態度であるように見えるのですが、ということは国の補助は当てにしないで、こちらだけでできるような財源を考えていこうねっていうことなのでしょうか。

○武智市長 小笠原課長。

○小笠原学校教育課長 失礼いたします。

高橋委員からの御質問にお答えしたいと思います。

この国の補助制度といいますのは、文部科学省がつけております補助金ですけれども、こちらにつきましては、断熱効果、いわゆる効率性を高めたいというところで、ただ室内機、室外機をつけるのではなくて、先ほどの塗装であったりとか、フィルムを貼ったりして、断熱性能を高めた上じやないと補助金の対象にならないよということでございまして、またここには書いておりませんが、補助額にも上限があったり、あと実際に要望してもつくかどうかというのも、今全国で殺到しているようなので難しいというところがあります。

そこで、私どもとしては、この補助事業ではなくて、起債という国から一旦お金を借りするという形の緊急防災・減災対策債を活用したいと。こちらは、避難所の整備に係る経費に充当できるもので、断熱効果を高める必要はございませんので、私どもは非常に使い勝手がいい、また要望すればいただける可能性が極めて高いというこちらの起債、国から一旦お金を借りするという形で整備を進めていきたいと考えております、この国の文部科学省の補助制度については見送ろうかなと現状では考えているところでございます。

○高橋委員 平たく言うと、断熱は断念することですか。

○小笠原学校教育課長 はい、そうです。

○高橋委員 断熱はしなくて、お金をもらうことは考えていなくて、借りる方向でいきますと、そういうことですかね。

○小笠原学校教育課長 そういうことです。

○高橋委員 ありがとうございます。

○武智市長 どうしても、文科省の縛りでやるとイニシャルコストがめちゃくちゃ高くなつてくるので、それよりもある程度、今の13校をまずは最初の5校とかもろもろ、危機管理課とも相談しながら、何とか6校やってくださいよとか、避難施設はこっちが困るからやってくださいよという話になってくるかもしれないけれども、私が思うのは電気とガスをセットしてないと、もう南海トラフがこの間も京都大学の教授が言ったのは、一番確率の高い、こんなデータをつくって、2035年だというのです、あと10年。この10年間に重信川の堰堤が全部改修できるかというとなかなかできんし、伊予市の公共施設が全部耐震化できるかというとできないのだけど、その枠の中でも、南海トラフが起こっちゃうと、多分停電の日数って結構あるんですよ、だから我々はEVとかというて電気自動車で供給するシステムを構築しつつあるのだけど、その枠で考えたときには、ガスと電気を共用した、そして極力お金のかからない、この中で一番お金がかかるのは何だったっけ、このABCDEの中で。

○小笠原学校教育課長 お金がかかるのは、こちらでは載せていないのですが、この電気とガスを両方設置した場合が1.5倍ぐらいかかる可能性があります。例えばBとDとか、BとCとか、そういうのをセットした場合には1.5倍ぐらいかかる可能性があります。

○武智市長 結局あのときどういう形がいいって言ったのかな、1.2倍ぐらいのやつ。

○小笠原学校教育課長 ただ、たちまちでは、やっぱりどちらでも対応できるように、設置にお金がかかるので。

○武智市長 2倍っていうのはあったかな。

○小笠原学校教育課長 いや、2倍はないです。東温市はハイブリッド、両方採用ということでやっていまして、それも今日はガスだけ使おうね、今日は電気だけ使おうねということができますので、色々な。

○武智市長 それは平時の際はそういうことができるけど、有事の際に電気が止まったときに何が一番いいのかというと、LPガスをばんばん持ってきてやるやつの併用型でやっとかんと、なかなか電気が来ないよねって。

○小笠原学校教育課長 そうですね、ガスがメインの電気が補助という形が多いですね。

○武智市長 そうそうそう、そういう形がいいのかなと思っていますけど、そこらはまたいろんな御意見を聞きながら、もっと練って、金がどれぐらいかかるか、初期投資がどれぐらいかかるか、イニシャルコストがどれだけかかり、ランニングコストがどれぐらいかかるというようなことちゃんと数値を出してまた説明しますけど、この枠の中ですけど、今は冒頭に言つ

たように優先順位的なことの枠をしないと、ちょっとやりくりが難しいよねっていうことの説明なのですから。何か教育長ござりますか、空調について。

○上岡教育長 空調については、先ほど小笠原課長も言わされましたように、危機管理課のほうのそれと一緒に一番できるだけ予算を抑えられる形でやっていくということをしていきたいと思っております。将来的には避難所ということで今の体育館には全部つくという形でやっていくのが一番望ましいのではないかと思っております。以上です。

○武智市長 もう一度言うけど、文科省だけのお金ではなく、総務省から有事の際の避難施設という位置づけの中のお金も取りに行きつつ、言るのは簡単だけど、そういう作文しながらやるのだけど、全国からもう集中するから、伊予市が優先的に来るかどうかは別にしても、そういうことは取り組んでまいりますという位置づけです。よろしくお願ひします。

ただいま皆様方からいただきました御意見につきましては、今後の参考としてしっかりと検討をしてまいりたいと思います。取りあえず本日の議題は全て終了いたしました。

その他というのは別にしても、御多忙にもかかわりませず御出席を賜り、貴重な御審議をいただきまして、誠にありがとうございます。

教育委員さんをはじめ皆様の御協力に感謝を申し上げ、議長の任務を解かせていただきましす。ありがとうございました。

○事務局 大変活発な御質問やら御意見やらいただきまして、ありがとうございました。また今後の検討材料の参考にさせていただいたらと思います。

それでは、以上で令和7年度第1回伊予市総合教育会議を閉会いたします。

一同御起立をお願いいたします。礼。お疲れさまでした。

午3時33分 閉会